

令和元年度 日之影町立高巣野小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。  
 4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要  
 ○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：教育懇話会委員評価

	達成目標と方策	第一次評価者所見	評価			
			第一次	第二次	第三次	
学力向上	1	45分の授業の充実を図るとともに5分以上の習熟の時間を確保し、「分かる授業」「鍛える授業」を目指し、児童に確かな学力を身に付けさせ、各種学力検査で全学年、全領域で全国及び県平均を上回るようにする。	2回の学校支援訪問と主題研究を通して、授業改善に取り組んできた。2学期の全学年の単元テストの結果の平均は、期待値に比べ、国語+9ポイント、算数+4ポイントであったが、各種学力検査では、全国及び県平均に届かない領域が見られた。今後、児童一人一人の理解や思考を十分に把握し、考える力の育成に努めていく。3月までに次の学年に向けた学びの見届けを計画的に行う。	3	3	3
	2	簡潔で分かりやすい指示・発問に努め、80%以上の児童が集中して話を聴くことができるようにする。	簡潔で分かりやすい指示や発問を工夫したことで、児童の聴く意欲や力を高めたと考えられる。さらに、友達の考えと自分の考えを比べて聞くといった、意欲的な聞き方ができるように指導を継続する。	3	3	3
	3	話し合いや発表で一人一人が意欲的に発言し、みんな考えてをまとめていくことができるようにする。	「途中まででもいいからね。」と発言を促す等の手立てをとったことで、全員が話し合いや発表に進んで参加している。話し合いで、みんな考えてをまとめることは十分ではない。みんな考えてをまとめる方法を具体的に指導していく必要がある。	3	3	3
	4	読書指導や読み聞かせの充実を通して、1週間に1冊以上借りる等の個人読書目標をもたせ、85%以上の児童が目標を達成できるようにする。	個人読書目標を達成している児童は81%である。読書や読み聞かせの時間を確保し、図書活動推進員を中心にした本に親しみやすい環境づくりを行うことで、読書意欲を高めた。	3	2	3
生徒指導	1	あいさつや返事、礼儀の指導を徹底し、学校や家庭、地域でのあいさつやお礼など、90%以上の児童が達成できるようにする。	88%の児童ができると回答した。地域の方からも元気なあいさつや返事ができていると賞賛されることが多い。教職員は70%の評価である。時と場に応じたあいさつ、一人でもできるあいさつについて継続して指導する。	3	3	4
	2	思いやりのある行動や丁寧でやさしい言葉遣いを90%以上の児童ができるようにする。	90%の児童ができると回答した。学校生活の中でも上級生が下級生を思いやる言動や困っている友達を気遣う場面が多く見られる。遊びや放課後等では、言葉遣いが荒くなる場面もあるので人権意識や実践力が高まるよう指導を継続する。	3	3	4
	3	ろうか歩行や室内での過ごし方など、静と動の区別を付け、80%以上の児童がけじめのある行動がとれるようにする。	90%の児童がけじめのある行動がとれていると回答した。学校での無言廊下歩行、清掃、室内での過ごし方等、場に応じた静と動のけじめのある行動がとれる児童が増えているので、継続して指導する。	3	3	3
	4	学校での朝のボランティア活動や地域におけるボランティア活動や行事等に80%以上の児童が進んで参加できるようにする。	90%の児童が進んで参加していると回答した。上級生から下級生への指導や同級生同士の教え合いが見られ、みんなで学校をきれいにしようという気持ちをもって熱心に取り組んでいる。地域での活動にも進んで取り組もうとする様子が見られる。	3	3	3
体力向上、安全指導	1	体育指導法の充実を図り、80%以上の児童が全力で運動に取り組むとともに、友達と協力しながら競技することができるようにし、「県体力テスト」でA・B判定の児童が70%以上になるようにする。	93%の児童が全力で運動に取り組んでいると回答した。「県体力テスト」のA・B判定の児童は69%で、1回達成した。授業に全力で運動に取り組む児童、協力や競争する児童が多く見られた。運動量を確保し、記録カードを活用した成果である。個人差に応じた指導を更に工夫しながら柔軟性を高める運動を継続して取り組ませる必要がある。	3	4	4
	2	「学校で天気の良い日には、昼休みに友達と外遊びをしている」と答える児童が80%以上になるようにする。	90%の児童が外遊びをしていると回答した。全校や各学級において、みんなで遊ぶ日を設定し、外で遊ぶことを促したり学級担任が一緒に遊んだりすることで、体を動かす楽しさを味わわせている成果である。	3	4	4
	3	立腰指導を徹底し、「姿勢に気を付けて話を聴いている」と回答する児童が80%以上を達成できるようにする。	90%以上の児童が姿勢に気を付けて話を聴いていると回答した。授業開始と終わり、集会等で指導を継続した成果である。教職員と保護者の評価は、それぞれ50%、54%で意識の差が見られた。指導を継続するとともに、基本的な生活習慣と結びつけた家庭での啓発を行う必要がある。	3	3	3
家庭・地域との連携	1	保育園への訪問や保育園の小学校体験などの相互の交流の機会を設定し、互いのよさを味わわせるとともに連携した教育の充実を図る。	しいの実保育園との交流を2回実施した。小学校と保育園での活動を通して、児童と園児との交流を深めることができた。夏季休業中の研修と小学校の参観日には、幼児、児童の様子を相互参観し、職員の連携も深めることができた。	3		3
	2	町教職員研修会や町教育の日、集合学習等への積極的な取組を通して、小・小中の連携した教育の充実を図る。	町教職員研修会での発言や町教育の日の授業での中心的な役割を担う等、積極的な姿が数多く見られた。小・小中の連携した取組を通して、教職員の連携に必要性を実感するとともに、学んだことを授業改善につなげることができた。	3		4
	3	家庭や地域社会の教育力の積極的な活用を図り、家庭・地域との連携を深める。	地区合同運動会やふれあい会等の行事では、全校で地域の方々とふれあうことができた。各教科等では、児童が地域に出かけたり、伝統芸能の指導者を学校に招聘したりして地域を知り、ふるさとを愛する心情を育むことができた。	3		3